



News Letter

川の環境学習会 in 隈川（北見市立常呂小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年7月3日（木）に、北見市を流れる常呂川支流の隈川くまがわにおいて、北見市立常呂小学校4年生25名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

開催前日に降雨があり当日の天候が心配されましたが、雨雲もなく気温も25℃程度の中無事に開催されました。

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学び、“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”ことを学びました。



川での注意点を学びました

ライフジャケットを正しく着用した後は、川に近づきよいよ調査です。児童たちは川底の石を拾い、ピンセットで生物を種類ごと取り分け、それぞれの生物数をカウントしました。その結果、ヒラタカゲロウ、ウズムシなどの“き



川の石にはどんな水生生物がいるかな？

れいな水にすむ水生生物”のほか、チラカゲロウ、コカゲロウ、シマトビケラ、ヒルなどが見られ、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。

次は「魚類調査」です。まずは、事前にスタッフが捕ったウグイ・ヤマメ・フクドジョウ・モクズガニなどをタライで観察しました。その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚捕りに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙ったり、みんなでタモ網を並べて上流から魚を追い立てたりしました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



ウグイやヤマメなどが隈川にいるんだね



魚はいるかな？
タモ網で魚捕りに挑戦！



みんなでタモ網を並べて魚を待ち構えます

～知って得する川の安全情報 ライフジャケット～

川の水の中では、人間の体は数%程度しか水面から出ません。助けを呼ぶために手を上げると、その数%を手が費やしてしまうため、頭が水面下に沈み、呼吸ができなくなってしまいます。ライフジャケットを正しく着用すれば、頭が水面から出るため呼吸ができ、さらに手が自由になるため助けを呼ぶことができるようになります。

川に近づく際には、大人・子どもを問わず必ずライフジャケットを着用しましょう。



出典 / 河川財団「水辺の安全ハンドブック」
Illustration / 山下 航

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.ml.it.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンはこちら



News Letter

川の環境学習会 in 無加川（北見市立北光小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年7月4日（金）と7月7日（月）に、北見市立北光小学校4年生3クラス82名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。7月4日は常呂川支流無加川の無加川橋下流で、7月7日は北光小学校の普通教室で行いました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、そして川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆7月4日の実施内容◆

当日は午後から降雨予報が出ていたため、午前中に2クラスの学習会を実施し、午後実施予定の1クラスは7月7日に延期することにしました。

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危険な場所について学び、“1人では川に行かない”“川に流された人を見つけたら助けを呼ぶ”ことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、実際に川に入り「水生生物調査」と「魚類調査」を行いました。児童たちは川底の石を拾い、ピンセットで水生生物を種類ごとに取り分け、それぞれの生物数をカ



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



石についている水生生物を
種類ごとに分けます

ウントしました。その結果、ヒラタカゲロウなど“きれいな水にすむ水生生物”のほか、シマトビケラやヒゲナガカワトビケラなども見つかかり、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。続いて魚類調査では、事前にスタッフが捕まえた魚をタライで観察し、実際に触ってみました。その後、児童たちが川に入り魚捕りに挑戦。タモ網をもって魚を狙ったり、みんなでタモ網を並べて上流から魚を追い立てたりしました。



タライの中にある魚を
実際に触ってみました



みんなでタモ網を並べて
魚を待ち構えます

◆7月7日の実施内容◆

当日は北見地方に熱中症警戒アラートが発表されたため、川辺での学習会を断念し、北光小学校の普通教室で学習会を実施しました。

「川の安全講習会」で川に入る際の注意事項を学んだ後は、2グループに分かれて「水生生物調査」と「魚類調査」を交互に実施しました。「水生生物調査」では、無加川から採取した石についてシマトビケラやヒゲナガカワトビケラなどを、タライの中で探して観察しました。「魚類調査」では、水槽内のエゾウグイ・ヤマメ・フクドジョウなどをフィッシュネットや観察ケースに移して、普段は見られない角度から魚の姿を観察しました。



タライに入れた石について
水生生物を探しました



水槽の中で泳ぐ無加川の
魚に興味津々

天候に左右された学習会でしたが、児童たちにとって貴重な体験となりました。

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから



News Letter

川の環境学習会 in 常呂川（北見市立南小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年7月9日（水）に、北見市を流れる常呂川の見晴大橋下流において、北見市立南小学校4年生3クラス99名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



開催場所：常呂川 見晴大橋下流
香りゃんせ公園付近

◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」です。児童たちは川底の石を手に取り、石にくっついている生物を観察しました。また、バットにあげた石からピンセットで生物を種類ごと取り分け、それぞれの生物数をカウントしました。その結果、ヒラタカゲロウやヤマトビケラなど“きれいな水にすむ水生生物”のほか、タニガワカゲロウなどが多く見られ、この調査地点の水質が良好であることがわかりました。

次は「魚類調査」です。まずは、事前にスタッフが捕ったウグイ・ヤマメ・フクドジョウ・モクズガニなどをタライで観察しました。その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙うと、フクドジョウやウグイの稚魚を捕ることができました。また、みん

なでタモ網を並べて上流から魚を追い立てると、小さなフクドジョウが捕れました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!?
対処のしかたを学びました



川の石には
どんな水生生物がいるかな?



水生生物で水のきれいさを
確認します



ウグイやフクドジョウなどが
常呂川にいるんだね



魚はとれたかな?



タモ網を並べて
上流から魚を追い立てます

～知って得する川の安全情報 ライフジャケット～

川の水の中では、人間の体は数%程度しか水面から出ません。助けを呼ぶために手を上げると、その数%を手が費やしてしまうため、頭が水面下に沈み、呼吸ができなくなってしまいます。ライフジャケットを正しく着用すれば、頭が水面から出るため呼吸ができ、さらに手が自由になるため助けを呼ぶことができるようになります。

川に近づく際には、大人・子どもを問わず必ずライフジャケットを着用しましょう。

ライフジャケットは
「川のシートベルト」です

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



News Letter

水辺の学習会 in 網走市立西小学校

魚類と水生生物の観察 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年7月11日(金)に、網走市立西小学校3・4年生37名を対象に「水辺の学習会」を開催しました。

網走川右岸遊歩道の清掃活動後、西小学校児童玄関横で「川に関する講話」を行い、その後、事前に網走川で採捕した生物を用いて「魚類と水生生物の観察」を実施しました。



魚類・水生生物
採捕箇所

西小学校

魚類・水生生物採捕箇所：網走川
オホーツク・文化交流センター付近

◆実施内容◆

当日は天候に恵まれ、気温が20℃程度と過ごしやすい環境での学習会となりました。

清掃活動では、お菓子の包装やたばこの吸い殻など、様々なごみをみんなで拾いました。

「川に関する講話」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

講話の後は各学年に分かれ「魚類と水生生物の観察」を実施しました。

「魚類の観察」では、水槽に入ったヌマガレイやメバルの稚魚のほかヌマチチブなどの魚を観察し、網走川にはどのような魚が息しているかを学びました。



川で楽しく安全に遊ぶための
注意点を学びました



網走川にはどのような
魚がすんでいるのかな？

「水生生物の観察」では、タライに入ったモクズガニ・ヤマトシジミ・スジエビ・ゴカイなどの生物を観察しました。児童たちはタライの中を縦横無尽に動くモクズガニに興味津々。タライからモクズガニが逃げ出し、皆で必死に捕まえる場面もありました。

川にすむ生物を調べることで水のきれいさがわかります。今回の学習会で生物を採捕した箇所は汽水域（海水と淡水の中間にあたる水域）にすむ生物が多く、ヤマトシジミなど“ややきれいな水にすむ水生生物”や、イソコツブムシなど“きたない水にすむ水生生物”が多く見られました。

児童たちにとって普段見ることのできない“動く魚類と水生生物”を観察する、貴重な体験ができた学習会となりました。



モクズガニに興味津々



網走川にはどのような
水生生物がいたかな？

～網走川の“水産動物の採捕禁止期間”～

網走川河口から網走湖湖口までの区域は、4月20日から6月30日まで及び10月1日から12月31日までの期間、“たも網”“さで網”を使って水中にすむ生物を採捕することが禁止されています(北海道漁業調整規則第40条第5項)。

学習会で展示したワカサギ・モクズガニ・ヤマトシジミ・イソコツブムシなどの生物は、この期間には採捕することができません。ルールを守って川に親しみましょう。



採捕禁止区域

網走湖

採捕禁止期間
4月20日～6月30日
10月1日～12月31日

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから



News Letter

川の環境学習会 in 網走川（網走市立潮見小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年8月26日（火）に網走市を流れる網走川の下流部で、網走市立潮見小学校4年生78名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



開催場所：網走川左岸 オホーツク文化交流センター前

◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことや、“実際に川に近づく際にはライフジャケットを着用すること”を学びました。

ライフジャケットを正しく着用したあとは、3班に分かれて「水生生物調査」と「魚類調査」を行いました。

水生生物調査では、事前に採捕した生き物を観察しながら、水のきれいさとの関係を学びました。今回の調査場所は汽水域（海水と淡水が混ざる水域）で、ヤマトシジミなど“ややきれいな水にすむ生物”のほか、イソコツブムシなど“きたない水にすむ生物”も見られました。水生生物の種類によって水質がわかることに驚いた児童もいました。

魚類調査では、タライに入ったメバル・ワカサギ・ウグイ・ヌマガレイ・ヌマチチブなどの魚類や、スジエビなどの甲殻類をじっくり観察。網走川にはどんな生き物がすんでいるのかを学びました。

その後、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙うと、スジエビなどをとることができました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!? 対処のしかたを学びました



水生生物で水のきれいさを確認します



タライの魚たちに夢中!



タモ網で魚とりに挑戦!

～網走川の“水産動物の採捕禁止期間”～

網走川河口から網走湖湖口までの区域は、4月20日から6月30日まで及び10月1日から12月31日までの期間、“たも網”“さで網”を使って水中にすむ生物を採捕することが禁止されています（北海道漁業調整規則第40条第5項）。

学習会で展示したヤマトシジミ・イソコツブムシ・ヌマチチブ・ヌマガレイなどの生物は、この期間には採捕することができません。ルールを守って川に親しみましょう。



採捕禁止期間
4月20日～6月30日
10月1日～12月31日

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォン
こちらから



News Letter

川の環境学習会 in 北見市立小泉小学校

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年9月2日（火）に、北見市立小泉小学校理科室において、小泉小学校4年生2クラス70名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことや、“実際に川に近づく際にはライフジャケットを着用すること”を学びました。

スタッフが事前に簡易測定した水質を説明した後、川の生物を調べることで水のきれいさがわかることを伝え、クラスを2グループに分けて「水生生物調査」と「魚類調査」を交互に実施しました。

「水生生物調査」では、タライに入れた常呂川の水や石にすむ生物を観察しました。今回採捕した生物はシマトビケラの仲間が多くみられたほか、ヘビトンボなどの“きれいな水にすむ水生生物”からシマイシビルなどの“きたない水にすむ水生生物”まで、様々な種類が確認されました。その結果、採捕箇所の水質が良好であることがわかりました。

「魚類調査」では、水槽中のエゾウグイ・ヤマメ・フクドジョウ・シマウキゴリなどを観察し、常呂川にはどのような魚が生息しているのかを学びました。また、観察ケースにとった魚では普段は見られない様々な方向からの魚の姿が観察できました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!? 対処のしかたを学びました



常呂川の水質はどうか?



生き物がたくさんいる! タライの水生生物を観察



見つけた水生生物の種類で常呂川のきれいさをチェック



水槽を泳ぐ常呂川の魚に興味津々



魚を観察ケースに入れて間近で観察しました

～知って得する川の安全情報 水深の見え方～

川で遊ぶ際に、水深が浅いと思ったところが意外と深いことがあります。これは光の屈折による目の錯覚で、水の入ったカップの底が実際より浅く見える現象と同じ原理です。

こうした予期せぬ深みでパニックに陥ると、大変危険であり、命に関わる重大な事故につながりかねません。見た目の水深は決して当てにならないことを意識し、川遊びでは膝下までの水深を目安に行動しましょう。また、万が一深みにはまってもおぼれられないように、必ずライフジャケットを着用しましょう。



左:空のカップ
右:水が3cm入ったカップ
水があるとカップが浅く見える

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンから
こちらから



News Letter

川の環境学習会 in 無加川（北見市立三輪小学校）

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年9月5日（金）に、北見市を流れる常呂川支流無加川の豊大橋下流において、北見市立三輪小学校5年生3クラス84名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



開催場所:無加川 豊大橋下流

◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことを学びました。

ライフジャケットを正しく着用した後は、「水生生物調査」と「魚類調査」です。3班に分かれ、事前に採捕した水生生物や魚類を観察しました。川にすむ生物を調べることで水のきれいさがわかります。豊大橋下流ではシマイシビルやミズムシといった“きたない水にすむ水生生物”のほか、シマトビケラやヒゲナガカワトビケラなどが見られました。また、タライに入ったウグイ・ヤマメ・フクドジョウなどを観察し、無加川に生息する魚について学びました。

最後は、児童たちが実際にタモ網を持って川に入り、魚とりに挑戦。自由にタモ網をもって魚を狙うと、トミヨやウグイの稚魚だけでなく、モノアラガイ・ヤゴ(トンボの幼虫)・マツモムシなど魚以外の生物もたくさん捕れました。ヤツメウナギの稚魚を捕る児童もいました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!? 対処のしかたを学びました



川の石にはどんな水生生物がいるかな?



水生生物で水のきれいさを確認します



タライの魚たちを観察



タモ網で魚とりに挑戦!

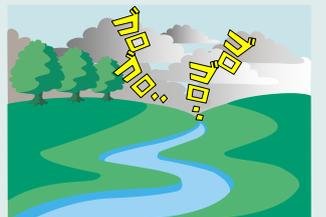


タモ網を並べて上流から魚を追い立てます

～知って得する川の安全情報 天気～

川に出かける前には、必ず天気予報をチェックしましょう。その際は、目的地だけでなく、川の上流の天気も忘れずにチェックを。その場所が晴れていても、上流で大雨が降れば、急に水かさが増すことがあります。水が濁ってきたり、枝や落ち葉が流れてきたりしたら、すぐに川から離れましょう。

川にいるときに天気が急変することもあります。今いる場所や上流側の空が暗くなってきたとき、雷の音が聞こえてきたとき、急に冷たい風が吹いてきたときは、天気急変のサインです。川の増水だけでなく、雷やひょうなどの危険からも身を守る必要があります。速やかに川から離れ、安全な屋内に避難しましょう。



出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンはこちら



News Letter

川の環境学習会 in 北見市立東相内小学校

水生生物調査 & 魚類調査 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年9月9日（火）に、北見市立東相内小学校家庭科室において、東相内小3年生1クラス24名を対象に「川の環境学習会」を開催しました。

学習会では、川で遊ぶ際の危険回避方法を学ぶ「川の安全講習会」、川に生息している水生生物から水質を判定する「水生生物調査」、川の魚を観察・採捕する「魚類調査」を実施しました。



魚類・水生生物採捕場所：無加川 豊大橋下流

◆実施内容◆

「川の安全講習会」では、川に近づく時の注意点や川の危ない場所について学習。“1人では川に行かない”“川に流された人がいたら助けを呼ぶ”といったことや“実際に川に近づく際にはライフジャケットを着用すること”を学びました。

スタッフが事前に簡易測定した水質を説明した後、川の生物を調べることで水のきれいさがわかることを伝え、クラスを2グループに分けて「水生生物調査」と「魚類調査」を交互に実施しました。

「水生生物調査」では、タライに入れた無加川の水や石にすむ生物を観察しました。今回採捕した生物はヒゲナガカワトビケラが多く見られたほか、ヤマトビケラやヘビトンボなどの“きれいな水にすむ水生生物”からシマイシビルなどの“きたない水にすむ水生生物”まで、様々な種類が確認されました。その結果、採捕箇所の水質が良好であることがわかりました。

「魚類調査」では、水槽中のウグイ・ヤマメ・フクドジョウなどを観察し、無加川にはどのような魚が生息しているのかを学びました。また、観察ケースにとった魚では普段は見られない様々な方向か

らの魚の姿が観察できました。

児童たちにとって貴重な体験ができた学習会となりました。



川に流されたらどうする!? 対処のしかたを学びました



無加川の水質はどうか?



タライの水生生物を観察



見つけた水生生物の種類で常呂川のきれいさをチェック



水槽を泳ぐ無加川の魚に興味津々



魚を観察ケースに入れて間近で観察しました

～知って得する川の安全情報 ライフジャケット～

例年夏になると、川などで遊んでいる最中に思いがけず流されてしまい、水難事故に繋がってしまう事例が全国で発生しています。穏やかに見える河川でも、急に深くなっていたり、急に流れが変わっていたりすると、大人でも油断すると流されてしまう危険があります。そんな時、ライフジャケットを着用していれば、頭を水面に浮かせることで落ち着いて対処できる可能性が高まります。

またライフジャケットを選ぶ際には、国土交通省の安全基準を満たしている「桜マーク」や「CSマーク」が付いているものを選ぶようにすると、より安心して着用できます。



国土交通省桜マークとCSマーク

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr0000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンから
こちらから